

令和4年度 江戸川区立松江第四中学校 学校関係者評価 期末評価用報告書

学校教育目標	よく考えて自らすすんで学ぶ 体験を通して豊かな心を育む 健康でたくましく生き抜く	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	生徒の希望や夢を育む学校 よく学び 心ゆたかに たくましく 授業改善に努め、学びを継続し、人権を尊重し、人間性を高められる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> 3つの取組を推進 ①タブレットを活用した個別最適な学習への取組が進んだ ②SDGs達成に向けた生徒会の取組 ③授業力向上の研修を推進できた <課題> 3つの組織的取組 ①不登校生徒への支援 ②特別な支援を要する生徒への対応(個に応じた教育) ③校務分掌の整理と学校環境の整備		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価						学校関係者評価			次年度への改善策		
					中間評価		期末評価		成果と課題		評価	評価	評価			
					取組	成果	取組	成果								
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施、改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実 江戸川っ子 study weekの取組	・毎トレによる適度な課題と支援 ・松四タイムの効果的取組 ・放課後を活用した補習 ・家庭学習習慣の向上90%	・毎トレ 提出率95%	A	A	C	A	B	C	C	C	B	毎トレの質に疑問をもっている生徒がいるので、内容を見直す時期ではないか。家庭に学習環境が整わない生徒への対応をどうするかが課題。	毎トレの定着により見えてくることもある。生活記録を継続しながら、学習コンテストの取組などを新たに加える。	
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実 (読書ノート)の活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・SDGsを軸にした教科等横断的な取組 ・朝読書の充実 ・教科での図書館の活用	・学校図書館の活用で探究的な学習に取り組み(80%) ・卒業論文の作成(全生徒)	A	C	D	B	C	D	B	C	B	プレット等による学校図書館の検索はできるのでしょうか	三年間を見通した、探究的な学習のカリキュラムをつくる。	
	体力の向上	・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上 ・外遊びや部活動を通じた運動体験の機会向上 ・睡眠に関する指導 ・栄養バランスの指導	・単元の技能向上を意図した補助運動の実施 ・運動の機会を増やし体力向上に取り組み(80%) ・睡眠時間の増加(80%) ・食への意識向上(90%)	・運動の機会を増やし体力向上に取り組み(80%) ・睡眠時間の増加(80%) ・食への意識向上(90%)	B	B	C	A	B	C	B	B	A	区外遊びが効果的に気分転換や運動習慣に寄与している。 ▲施設面や安全面を考慮し、すべての学級に提供できない。	今年度の実践を継続させることが大切。タブレットの負の影響を最小限にできる、自己管理能力を高める。	
	オリパラ教育の推進	・「学校2020レガシー」の設定やオリパラ教育の発展	・バラスポーツ選手との交流と体験 ・教科・領域などにおけるオリパラ教育	・バラスポーツに触れ、スポーツへの関心や生き方考える機会をもつ(90%)	D	C	D	C	C	C	B	C	C	○バラスポーツ選手との交流を通して、生徒のパラリンピックについての関心が高まった。 ▲コロナ感染症予防のために人数を減らしての体験となったため、全学年で実施することができなかった。	重いスポーツの体験は貴重、全学年で実施できるとなよよかった。	あすチャレなどの企画に、毎年取り組んでいく。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・少人数を活かしたスピーキング力の向上 ・英語検定の受験率向上	・英語を使っての会話力の実感(80%) ・英検受験者70名以上	A	B	D	A	B	D	B	B	B	○授業へ取り組み姿勢は積極的である。 ▲得点力に結び付いていない。	学力向上のための具体策が必要である。	コンテスト形式等で、全校体制で基礎学力向上に取り組みます。
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめのおきにくい学校づくりの取組の充実 ・ネットリテラシーの指導 ・SSWや生活指導連絡協議会の活用	・いじめの未然防止、早期発見・早期指導による解消ができる組織的取組 ・校内委員会での情報共有と迅速な対応 ・関係諸機関との積極連携 ・東京SNSルールを活用した家庭ルールへの指導	・いじめの未然防止、早期発見・早期指導による解消ができる組織的取組 ・いじめ未解決0 ・安全安心な学級・学校(90%) ・インターネット・SNSを正しく安全に指導する。	A	B	B	A	C	B	B	B	B	○校内委員会の組織的な対策をしていることで、早期発見につながっている。 ○グループ・エンカウンターに取り組みなど人間関係の構築を日頃より図っている学年において、生徒自治や行事を楽しみながら成功させようという姿勢が育っている。 ▲組織的計画的、かつ生徒の成長を支える暖かい指導の継続 ▲生活指導の主は、SNSが要因となっている。	さまざまな角度から人権教育を行う必要がある。 タブレットの活用に期待する一方で、正しい使用法や利用制限については、家庭の責任も大きい。	人間関係の構築を意図的に行うグループワークを、年度初めや行事の少ない時期に取り入れる。
	生徒会自治の向上	・専門委員会・中央委員会の指導を通した生徒自治力の向上	・主体的に所属集団を向上させる意欲・態度の育成	・生徒会活動が学校生活の向上につながっている(80%)	A	A	B	A	A	B	A	A	A	○生徒が主体となって活動することができ、様々な行事で活躍できた。また、生徒会役員が中心となって、学校全体に呼びかけた。 ▲全校生徒に所属意識をもたせること。	生徒会が地域でも活躍できる日を待ち望む。	中委員会を中心にした、生徒による自治活動を増やす。
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・SC、巡回心理士の情報共有と組織的支援 ・保護者との関係づくりと機関諸機関との連携 ・エンカレッジルーム、相談室の活用	・生徒・保護者の悩みが、教師やSCなどの相談や面談、エンカレッジルームの活用によって軽減・解消できる(80%)	A	B	C	A	B	C	B	B	A	○年度初めの保護者会で各学年コーディネーターからの講話と特別支援教育だより配付。四中における特別支援教育及び校内体制についての周知ができた。次年度以降も継続して発行し、より多くの保護者の理解を得る。 ▲教室環境の整備	生徒の居場所としてのエンカレッジルームの運営を組織的に行う。SCやSSWとの連携を更に進め、相談窓口を増やしそれぞれの必要性に応えられるようにする。	
	不登校支援	・不登校支援委員会の充実 ・オンライン面接、授業配信の実施	・学校とのつながりを絶やさない ・タブレットの活用も	・新規0、引きこもり0 ・不登校生徒3%	A	A	A	A	A	A	A	A	A	○タブレットを活用し生徒と連絡をとることも増えてきた。 ○SSW、SCの校内委員会への参加。多角的な視点での生徒情報共有と支援方法の検討ができた。 ○QUに関する校内研修会を実施。	引き続き、別室登校希望者のためのエンカレッジルームに教員配置をする。タブレットによる授業配信を継続する。	
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	・デジタル教科書・学習アプリ活用、タブレットの日の設定	・全教科がタブレットを使ったわかりやすい授業80%	B	B	A	A	A	A	A	A	A	○研修やICT支援員による活用場面の拡大 ▲学習場面での効果的な使用法の拡大	今後もますます研修を重ねられることを。	研修を校内外で継続させる。
	授業力向上	・小グループによる対話的な授業 ・知識が「つながり」わかった「おもしろい」と思える授業 ・授業の内容を可視化 ・授業の相互公開	・全教員の授業実践 ・市松模範組4人組学習 ・「本時の目標」「まごめ」の表示 ・校内OJT(組織的人材育成)	・教科・読書科、総合的な学習の時間などのつながりによる深い学び(80%)	A	A	B	A	B	B	B	B	B	○4人組学習の浸透による話し合い活動の向上が見られる。 ○前・後期2回授業アンケートを実施した。各教員に還元し、授業改善の機会を設けた。 ○時間的な制約が課題。また、校内OJTの組織的な取り組みを促進することも課題。	対話的な授業を継続させ、知識の定着を図る。 主体的に学ぶための仕掛けや課題をどのようにつなげるか研修を継続させる。	
	人権感覚と人権意識の育成	・教師自身の言語環境の向上 ・LGBTへの理解と支援 ・差別や偏見のない環境づくり	・生徒の人権を大切にしよう ・制限の選択制 ・全教科・教材を通しての多様な生き方・考え方の理解	・生徒の人権を尊重(95%) ・多様な生き方を知り、尊重することができる(90%)	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	○SDGsにも関連付けて、人権感覚を養っている。 ▲言語活動の再度見直し、多様性の尊重を。	人権の涵養については継続的に指導をする。外部講師を呼んでの学習会を企画する。
特色ある教育の展開	SDGsに取り組む学校	・各教科等におけるSDGsの取組 ・特別活動・行事におけるSDGs ・生徒会活動によるSDGs	・教科などにおけるSDGs達成に向けた実践	・SDGs達成に向けて行動している(90%)	A	B	C	B	B	C	B	B	B	○総合的な学習の時間のメインテーマの1つにSDGsを取り入れ、学年ごとにSDGsについて考える時間を作っている。 ▲探究的な学習の実施	生徒会では、SDGsを意識した取組が行われてきた。各教科の成果としての発表会を年度末に行い、発信する力も身に着ける。	
	道徳教育の充実	・考え議論(対話)する授業により、多様な意見を受け止め、自身の価値観を高める。	・ローテーション道徳 ・発言しやすい学校づくり ・教材開発	・積極的な対話を通し、自身や他者とのつながりについて深く考える。(80%)	A	A	B	A	A	B	A	A	A	○ローテーション道徳の取組による他教員の授業観察が指導力向上につながった。 ▲教材研究により、適切な中心発問の設定や工夫を行う。	・講演会等を活用しても良いのでは?	
	保護者・地域との連携	・保護者・地域との交流 ・ボランティア活動への積極的な取組 ・ホームページの充実	・開かれた学校を意識した情報提供と公開 ・地域の活動への参加促進	・学校のことが家庭で話題にあがる ・学校のことがよくわかる。(80%)	B	B	B	A	B	B	B	B	A	○工夫をしながらの公開を実施している。 ホームページの更新を進めている。 ▲担当教員の協力による更なる更新。	・今後、少しずつもに戻していただきたい。	各学年の日常的な取組を教員がホームページにアップロードするよう、明確な分担を行う。